

ジュニア
ガイド

上野アーティスト
プロジェクト 2022

Ueno Artist Project 2022

美を

つむぐ

源氏物語

—めぐり逢ひける えには深しな—

2022 | 11 | 19 (土) → 2023 | 1 | 6 (金)

Beauty Nurtured by The Tale of Genji - It is Fate that Brings Us Together

1000年以上 語り継がれる 源氏物語

『源氏物語』とは？

今から約1000年前に、紫式部という女性によって書かれた長編物語です。全部で54巻(帖)から成り、平安時代の貴族の暮らしが舞台になっています。主人公の光源氏は天皇の息子に生まれた美男子で、多くの女性と交際します。恋多き光源氏とたくさんの登場人物による、人間ドラマと、繊細な心の動きが、美しい自然の情景とともに描かれています。

紫式部とは？

10世紀の終わりごろ生まれた女性で、本名は不明です。小さいころから学者である父親の本を読みあさり、漢詩や文学の知識をたくさん身につけて育ちました。紫式部は藤原宣孝と結婚しますが、すぐに宣孝は亡くなります。そして、死別して間もなく、『源氏物語』は書き始められたと言われています。その後、教養豊かな紫式部は、一条天皇の后である中宮彰子に仕えます。宮中でお世話役や教育係として生活しながら、『源氏物語』を書き上げました。



源氏物語から生まれる新しい作品！

『源氏物語』は多くの人に愛され、漫画やドラマの題材になったり、物語をもとにして新しい作品が作られたりしています。「美をつむぐ源氏物語—めぐり逢ひける えには深しな—」の展覧会では、7人の作家が、『源氏物語』の好きな場面、登場人物、和歌などを、それぞれにアレンジして表現しています。

ガラスの中の書には、
紫式部のどんな日常が
綴られているのでしょうか？



玉田恭子《紫之にぎ》2019年 作家蔵

魔法の絨毯みたいになびいている、玉田恭子さんのガラス絵巻。透き通った色ガラスの内側には、墨流し模様と、うるわしい書が重ねられています。書は、宮中で暮らしていた紫式部の日記の一部分を記しています。平安時代の雅な時間に招いているようです。いろいろな角度から、じっくりみてみましょう！



青木寿恵《パリの若紫》制作年不詳 寿恵更紗ミュージアム蔵

遠くに見えるのはエッフェル塔？
ここは日本？それとも……？

『源氏物語』では…

わかむらさき ひかるげんじ しょうがい じよせい ひかるげんじ
若紫は光源氏が生涯最も愛した女性です。光源氏は18
さい わかむらさき
歳のときに若紫に出会います。ある日の夕暮れ。通りか
かった民家の庭をのぞき込んだ光源氏は、雀を追いかけ
て元気に走り回る10歳の美少女を見かけて、一目ぼれし
ました。二人は一緒に暮らし始め、やがて愛が成就します。

せんしよくか あおきすえ わかむらさき げんじ
染色家の青木寿恵さんの作品《パリの若紫》では、『源氏
物語』に登場する若紫が、エッフェル塔の方を向いて立っ
ています。わかむらさき じゅうにひとえ あさがおもよう あさがお
若紫の十二単には朝顔模様。足元には朝顔のつる
が伸びて、いきいきと弾んでいるようです。つるの背景には
はす はいけい
黄色い面。画面下と空の上には、キラキラしたものが描か
れています。わかむらさき
若紫は一体どこにいるのだと思いますか？



渡邊裕公《千年之恋～源氏物語～》2016年 作家蔵

絵の中に横たわる女の人。その下にはたくさんのカードが散りばめられているように見えます。画家の渡邊裕公さんはこの背景を描くために、12世紀前半に生まれた『源氏物語』を絵画にした《源氏物語絵巻》を忠実に写生し、バラバラに配置しました。『源氏物語』のいろいろな場面が、心地よく、リズムカルに重なり合っています。絵のつながり方から、たくさんの形が見えてきます。

女の方はどんな気持ちで折り重なる源氏物語の場面を見つめているのでしょうか？

源氏物語の場面 | ①



扇の上、花と言葉

『源氏物語』の第四巻「夕顔」では、光源氏が17歳の夏のある日、みすぼらしい家の軒先に、夕顔の花が咲いているのを見つけます。光源氏の付き人が敷地に入っ一えだ枝折ると、離れてその様子を見ていた住人は、夕顔という名前の愛らしい女性でした。

石踊達哉さんの絵《夕顔》には、中央に扇が描かれ、手前には、白い花が細長いつるを伸ばして広がっています。下になびいているのは、長い髪と、着物の後ろ身頃(背中部分)でしょうか。石踊さんは『源氏物語』に登場する夕顔をイメージしてこの絵を描きました。



石踊達哉《夕顔》1996年 講談社蔵

ここでは全部で54巻(帖)ある『源氏物語』の3つの場面を紹介します。



鷹野理芳《儂い恋「夕顔の巻」より》(部分)2022年 作家蔵

物語では夕顔の付き人が「この扇にお花をのせて、お持ち帰りください」と、扇を光源氏に手渡します。上品なお香のにおいがする扇には、和歌が書かれていました。光源氏は、こんなに奥ゆかしい贈り物をする夕顔のことが好きになります。

鷹野理芳さんの作品《儂い恋「夕顔の巻」より》には、この夕顔の和歌が書かれています。

花 夕 光 白 見 心
顔 そ 露 ら 見 心
の へ の の れ か あ
の た 美 づ れ かと て
る しさ づ ぞ ぞ に
る 美 しく しく しく

(現代語訳：心あてに、あなたは源氏の君様かと推測します。白露の美しさで、こちらの夕顔の花もいっそう美しくなります。)

扇の上の繊細な文字から、夕顔のどんなイメージが伝わってきますか？



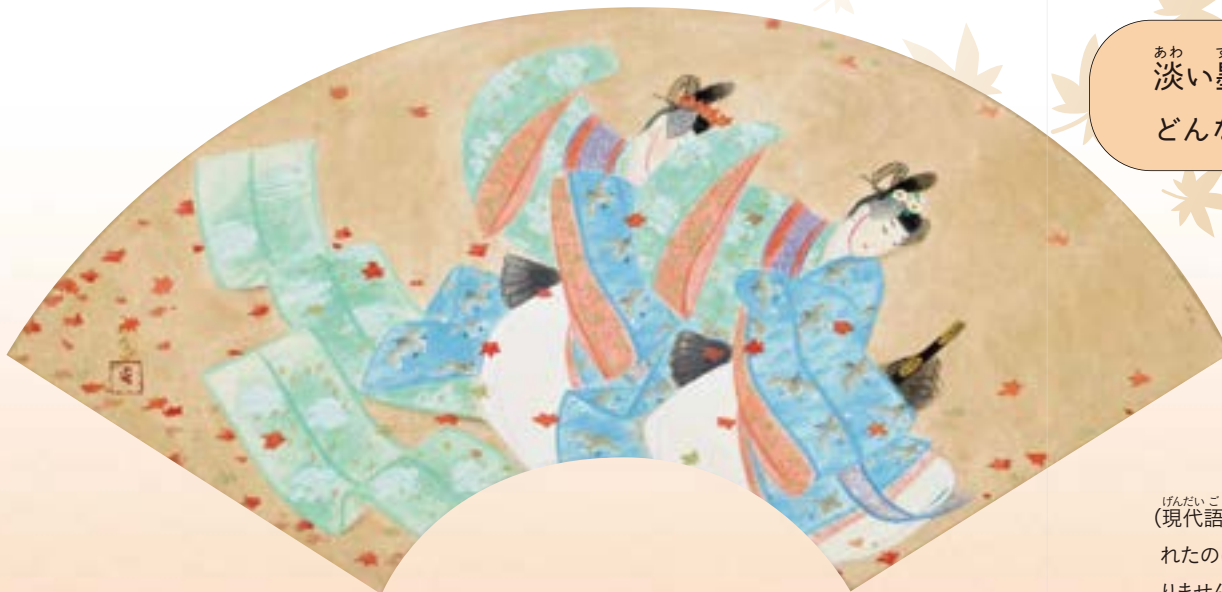
源氏物語の場面 | ②



大きく袖を揺らして踊る二人、
これはどんな舞？

空に紅葉が舞う季節。衣を着た二人が、大きく袖を揺らしています。どんな音楽にあわせて踊っているのでしょうか。

守屋多々志さんは、『源氏物語』から130の場面を選び、扇型の絵を描きました。この作品はその一つ『紅葉賀「青海波」』です。秋の夕暮れ前、18歳の光源氏は、いとこの頭中将と一緒に、中国から伝わる舞楽「青海波」を舞いました。客席には父の桐壺帝と、帝の女御であり光源氏の初恋の相手でもある藤壺がいました。



守屋多々志《紅葉賀「青海波」》1991年 個人蔵



高木厚人《ふぢつぼのゆめ》2012年 作家蔵

このとき藤壺は、帝に内緒で光源氏との関係を持ち、子を身ごもっていました。翌日、複雑な思いで舞を見届けた藤壺に、光源氏は和歌を贈り、「あなたのために、一生懸命踊った私の思いは伝わったでしょうか？」と尋ねます。藤壺は光源氏に和歌を贈り返しました。高木厚人さんの書《ふぢつぼのゆめ》には、この藤壺の和歌が書かれています。

淡い墨の表情には、藤壺の光源氏への
どんな思いが込められているのでしょうか？



袖から人の
ふること
は
とほけれど
は
あはれと
はみさ
あはれと
はみさ

(現代語訳：中国で青海波の舞が生まれたのは遠い昔の話なのでよく分かりませんが、私はあなたの舞を、しみじみと素晴らしいものと拝見しました。)

源氏物語の場面 | ③



めぐり逢えたのは、
縁が深いということ？

舟の上には二人の女性の後ろ姿。対岸の中央には、立派な牛車があり、左右には、カラフルな装いの大人たちが整列しています。奥には松の木が生い茂り、何かの儀式が行われているようです。

この作品《濔標「住吉詣」》も、守屋さんが描いた『源氏物語』の一場面です。29歳の光源氏は、たくさんの男を引き連れて、住吉神社にお参りに行きました。このとき、源氏が遠距離恋愛をしていた相手、明石の君は、なにも知らずに舟で住吉詣に出かけていました。



守屋多々志《濔標「住吉詣」》1991年 個人蔵

対岸にいる光源氏の一行と居合わせた明石の君は、その華やかな姿を見て、身分の違いを嘆き、なにも言わずに帰ってしまいます。それを後から知った光源氏は、明石の君を慰めようと、和歌を送りました。



えにめぐり逢ひける
は深しな
ここまでも
恋ふるし
みをつくし

(現代語訳：身を尽くして、恋する証
拠に、こんな場所でめぐり会えたの
は、縁が深いということですね。)

この偶然を引き起こした、「縁(えん・えに)」の不思議。「縁」すなわち「つながり」は、この展示会のテーマです。『源氏物語』は54巻から成る大長編小説ですが、展示会では、物語のいろいろな部分が切り取られ、7人7色の視点で表現されています。作品や『源氏物語』の場面から、自分のお気に入りの部分を見つけて、そこに新たな「縁・つながり」を感じてみてください。



美をつむぐ 源氏物語

上野アーティスト
プロジェクト2022

Ueno
Artist Project
2022

—めぐり逢ひける えには深しな—

“Beauty Nurtured by *The Tale of Genji* — It is Fate that Brings Us Together”

会 期 | 2022年11月19日(土)－2023年1月6日(金)

会 場 | 東京都美術館 ギャラリー A・C

休 室 日 | 2022年11月21日(月)、12月5日(月)、19日(月)、29日(木)－2023年1月3日(火)

開室時間 | 9:30－17:30(入室は開室の30分前まで)

夜間開室 | 11月25日(金)、12月2日(金)、9日(金)、16日(金)、23日(金)は9:30－20:00(入室は開室の30分前まで)

観 覧 料 | **学生以下無料** 一般500円／65歳以上300円

※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料

※学生の方、65歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、証明できるものをご提示ください

※都内の小・中・高校生を引率する教員は事前の観覧料免除申請により観覧料無料となります

※特別展「展覧会 岡本太郎」(会期:2022年10月18日(火)－12月28日(水))のチケット提示にて、入場無料

※事前予約なしでご覧いただけます。ただし、混雑時に入場制限を行う場合がございますのでご了承ください

主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

展覧会ウェブサイト https://www.tobikan.jp/exhibition/2022_uenoartistproject.html



源氏物語と 江戸文化

同時開催

The Tale of Genji and Edo Culture

会 期 | 2022年11月19日(土)－2023年1月6日(金)

会 場 | 東京都美術館 ギャラリー B

※会期中、一部展示替えを行います

※休室日、開室時間、夜間開室日は上記と同じです

観 覧 料 | **無料**

主催:東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

連携:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館

展覧会ウェブサイト

https://www.tobikan.jp/exhibition/2022_collection.html



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

東京・上野公園
TOKYO UENO-PARK

お問い合わせ先

東京都美術館 03-3823-6921(代表)

■本ジュニアガイドについて

→アート・コミュニケーション係

■展覧会について→交流係

制作:東京都美術館 藤岡勇人(編集・テキスト)、杉山哲司 | イラスト:Tsuksa Doi | デザイン:栗谷川舞